

2022年11月26日

「第14回アジアドラゴンボート選手権大会」報告書

JDBA 副理事長・菖蒲 誠

2022年11月19日（日）から21日（月）にかけて、タイ・パタヤにて開催された「第14回アジアドラゴンボート選手権大会」に大会運営責任者の一人として参加してきましたので、以下報告致します。

1. 大会名

「14th Asian Dragon Boat Championships」

2. 開催場所

Royal Thai Navy Rowing Center, Ban Chang District of Rayong Province, Thailand.
パタヤ市内のホテルからバスで約50分の距離にあり、タイ海軍が管理を請け負っている完成後数年の新しい施設。



3. Regatta Course

6レーン、幅13,5m、深さ3,5m

4. ボート

IDBF licensed Peisheng-BUK standard and small boats.

BUKの技術協力を得て、中国のPeisheng社が製作したボート。

5. Competition Format

競技はIDBFの競技ルールに基づき開催。

6. 競技のクラス、距離

Standard Boat	Racing Class	Straight Lane Race		
	OPEN	200m	500m	1000m
Small Boat	WOMEN	200m	500m	1000m
	MIXED	200m	500m	1000m
	OPEN	200m	500m	1000m
Small Boat	WOMEN	200m	500m	1000m
	MIXED	200m	500m	1000m

7. 大会概要

「第14回アジアドラゴンボート選手権大会」は、COVID-19の影響により開催地が決定していなかったが、本年5月にタイの「Rowing and Canoeing Association of Thailand (RCAT)」が自国での開催を提唱し、実現したものです。

8. 参加国 (11か国)

China, Hong Kong-China, Chinese-Taipei, Singapore, India, Myanmar, Indonesia, Cambodia, Australia, Malaysia, Thailand

9. 国際審判員

Jury: Makoto Shobu (Japan, Grade 4)

Chief Official: Dick Lim (Malaysia, Grade 4)

Assistant Chief Official: Makoto Shobu (Japan, Grade 4)

Technical Director: Chang Chao-Hung (Joseph) (Chinese Taipei, Grade 2)

Chiefs: Sylvia Wong (Australia, Grade 4)

Marcia Cristobal (Philippines, Grade 3)

Tom Joseph (India, Grade 2)

Tsui Miu Yee (Hong Kong-China, Grade 2)

Santha Rajoo (Malaysia, Grade 2)

Huang Xiao Man (Singapore, Grade 2)

Ng Qin Sharon (Singapore, Grade 2)

Yang Han Chen (Chinese Taipei, Grade 2)

Supagorn Lapkongsillp (Thailand, Grade 2)

Naphol Suwannathat (Thailand, Grade 2)

Elissa Mackenzie (Australia, Grade 2)

Cjhow Hing Wong Sammy (Hong Kong-China, Grade 2)

Farooq Ahmad (India, Grade 1)
Ko Cheng Liang (Thinese Taipei, Grade 1)
Amnuay (Thailand, Grade 1)
Charoenrat (Thailand, Grade 1)
Winai (Thailand, Grade 1)
Wanpiya (Thailand, Grade 1)
Attaporn (Thailand, Grade 1)
Nualtong (Thailand, Grade 1)
Piyanat (Thailand, Grade 1)



10. 大会プログラム

11月19日(土) 1000m

08:00 ~ 17:40

11月20日(日) 500m

08:30 ~ 17:40

11月21日(月) 200m

09:00 ~ 17:00

Party: 17:00 ~ 19:00

Chief Official の Dick Lim, Technical Director の Joseph, それに私の 3 人は 13 日(日) 現地到着、14 日から 18 日にかけて RCAT の責任者とのミーティング、会場設営のチェック、スタート、フィニッシュ、ボート、関連施設等のチェック、チームマネジャーミーティングの準備などを行い、19 日からの大会開始に備える。

スタート、フィニッシュはドイツの IMAS 社の機材を使用。



レース結果等、次のレースの組み合わせ、各部署間の連絡等はスマートフォンの WhatsApp アプリを通じて行う。

DB12 Open				200M		Heat																																																						
Race	Time	Group	Lane	Country	Result	Rank	Remarks																																																					
51	10:00	1	1	-				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">DB12 Mixed</th> <th colspan="2">200M</th> <th colspan="2">GF</th> </tr> <tr> <th>Race</th> <th>Time</th> <th>Group</th> <th>Lane</th> <th>Team</th> <th>Result</th> <th>Rank</th> <th>Remarks</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">57</td> <td rowspan="6">12:00</td> <td rowspan="6">1</td> <td>1</td> <td>CAMBODIA</td> <td>0:52.166</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>HONG KONG, CHINA</td> <td>0:51.671</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>INDONESIA</td> <td>0:48.793</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>MYANMAR</td> <td>0:50.326</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>THAILAND</td> <td>0:51.333</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>AUSTRALIA</td> <td>0:55.258</td> <td>6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				DB12 Mixed				200M		GF		Race	Time	Group	Lane	Team	Result	Rank	Remarks	57	12:00	1	1	CAMBODIA	0:52.166	5		2	HONG KONG, CHINA	0:51.671	4		3	INDONESIA	0:48.793	1		4	MYANMAR	0:50.326	2		5	THAILAND	0:51.333	3		6	AUSTRALIA	0:55.258	6	
			DB12 Mixed				200M					GF																																																
			Race	Time	Group	Lane	Team					Result	Rank	Remarks																																														
			57	12:00	1	1	CAMBODIA					0:52.166	5																																															
						2	HONG KONG, CHINA					0:51.671	4																																															
						3	INDONESIA					0:48.793	1																																															
4	MYANMAR	0:50.326				2																																																						
5	THAILAND	0:51.333				3																																																						
6	AUSTRALIA	0:55.258				6																																																						
2	SINGAPORE																																																											
3	CHINESE TAIPEI																																																											
4	CAMBODIA																																																											
5	THAILAND																																																											
6	INDONESIA																																																											
52	10:10	2	1	INDIA				Prizes for top 3 winners																																																				
			2	MYANMAR																																																								
			3	MALAYSIA																																																								
			4	AUSTRALIA																																																								
			5	HONG KONG, CHINA																																																								
			6	CHINA																																																								

11. 大会を通じての感想

- 1) 国際審判員、国内審判員、サポーターの連携は上出来で、特に什器備品の手配、緊急に必要な備品の手配等については迅速な対応がなされ、カヌー、ボート、カヤックなど多くの水上スポーツ大会の運営を経験していることと、海軍関係者の統制のとれた対応には感銘を受けた。来年予定されている「世界ドラゴンボート選手権大

- 会」への対応も万全と思えた。
- 2) 独裁政権下のミャンマーがチームを派遣してきたことには少し驚いたが、統制の取れた動きと強さには驚きを禁じ得なかった。ただ、乗艇時にボートの扱いが粗雑なことが目についた。
 - 3) 大会全体を振り返ると、開催国のタイは勿論だが、インドネシア、ミャンマーの強さが際立っていた。Chief Official としてコントロールタワーに缶詰状態で、これらのチームマネージャーやコーチと話をする機会が無かったが、軍のトレーニングにドラゴンボートを組み入れているということもあり、練習の多さがやはり違いを生み出しているのかもしれない。
 - 4) 参加チームの中には、最低限必要とされるパドラー数を整えずクルーリストを提出、また、女子チームに男子の舵取りを入れているなど、競技ルールを順守しないチームがあり、国を代表して参加しているという意識の低い国・チームがあったことは残念だった。
 - 5) 会場の設備等の写真を以下に添付。





- 6) ボートはスモール、スタンダードともに中国の Peisheng-BUK ボートを使用。これらのボートは Peisheng 社がドイツの BUK の技術協力を得て製作しているものだが、フロントの足置き部分、後部の舵取り部分が破損するなど、弱さが目に付いた。チャンピオン社のボートの方が安定的に使用できるかもしれないという印象を持った。
- 7) 大会結果については別紙を参照。

以上報告致します。